

省CO₂推進モデル事業の概評と今後の動向

エネルギーシステム分野に おける立場から

省CO₂推進モデル事業評価委員
東京工業大学大学院教授
柏木 孝夫

省CO₂推進の「モデル事業」として

- 省エネ技術に限定することなく、創エネルギー、建築的配慮なども含む対策
- 既に普及している技術の羅列ではなく、「モデル事業」と呼ぶにふさわしい先導性や先進性
- エネルギーシステム分野では……
 - 複数建物を対象とした面的なエネルギー利用や熱融通による省CO₂の加速
 - 土地利用・建築計画と先進的省CO₂技術のトータルデザイン など

今回の選定について

- 省CO₂の先導的モデル事業にふさわしいと評価できるプロジェクトを選定

今後の期待

- 省エネと新エネの有機的な組み合わせで省CO₂を促進する建築プロジェクトやまちづくりの提案
- 周辺建物や周辺街区への連鎖的な省CO₂を促進し得る面的なエネルギー利用の提案 など

省CO₂推進モデル事業の概評と今後の動向

省エネ建築・設備分野に おける立場から

省CO₂推進モデル事業評価委員
東京大学大学院教授
坂本 雄三

1

省エネ建築・設備分野における立場から

以下の三要素のうち、最低でも一つは該当することを要求した。

- ①総合性＝組み合わせ、複合化、統合化、調和
- ②先導性＝模範的モデル、先進性、先端性
- ③普及性＝一般性、実現性、波及性

（一般的な省エネ技術の採用だけでは不十分）

NO.1(神戸ドイツ学院ヨーロッパスクール)→①と③

NO.2(足利赤十字病院)→①と②

NO.10(早稲田環境研究所)→③

【今後の期待】

個性的な工夫、建築と設備の統合化、普及のきっかけになるもの

2

省CO₂推進モデル事業の概評と今後の動向

生産・住宅計画分野に おける立場から

省CO₂推進モデル事業評価委員
東京大学大学院准教授
清家 剛

戸建住宅に関する省CO₂の提案

- 省CO₂の視点から提案された技術
 - 多くが普及途上にあるもの
 - 基本的な技術で新規性を求めることは難しい

- モデル事業としての可能性
 - 技術の組み合わせやモニタリングなどの方法
 - 集合したことによる技術の組み合わせ など

今回の選定について

- 既存設備の単純な組み合わせでは不十分
- モデルとして先導性を見いだせるものを選定
 - 技術の新たな組み合わせ
 - 普及のための仕組みなど

今後の期待

- 木造住宅の提案、改修技術の提案
- 住宅から住まい手へのアピールへ展開、まちづくりへの展開が見いだせる提案など